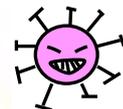


感染症に気をつけよう！



平成25年
【9月号】



横浜市内の感染症流行状況

感染症	流行状況		コメント
腸管出血性大腸菌感染症	流行	増加	8月下旬の1週間で、過去5年間の <u>同時期平均の約3倍</u> が報告されています。例年これからの時期も流行がみられるので、 <u>注意が必要</u> です。下の解説をご覧ください。
てあしくちびょう 手足口病	流行	横ばい	流行のピークは過ぎましたが、 <u>市全体では警報レベル</u> が続いています。予防には手洗いが重要です。乳幼児では、おしめを替えた際もしっかり手を洗いましょう。 【8月号】



今、気をつけたい感染症

腸管出血性大腸菌感染症

O157(オーイチゴナ)などの病原性大腸菌に汚染された物を口にすることが原因です。焼肉による感染が有名です。

感染力が強く、2～14日と長い潜伏期間をおいて腹痛と下痢が何回も起き、さらに、血便が出ることがあります。重症化すると溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症などになります。特に、抵抗力の弱い乳幼児や高齢者では注意が必要です。

加熱(75℃で1分以上)すれば、O157は死にます。肉は中心部までしっかり火を通しましょう。

O157は牛等の腸内に存在し、新鮮な肉も汚染されている場合があります。野菜などの食品をよく洗い、焼肉を食べる際には生肉を取るはしと食べるはしを区別しましょう。

感染した家族から、うつる例もあります。人から人への感染を防ぐために、正しい手洗いも大切です。

症状が出た時には、自分の判断で下痢止めを飲まないで、早目に医療機関を受診しましょう。詳しくは、「O157に注意しましょう！」をご覧ください。

